

インド学仏教史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
インド学特論Ⅰ	祭式文献購読 ヴェーダ 散文選	2	西村 直子	1	木曜2限
インド学特論Ⅱ	祭式文献購読 ヴェーダ 散文選	2	西村 直子	2	木曜2限
インド仏教史特論Ⅰ	bSod nams rtse mo 著『タ ントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	1	火曜2限
インド仏教史特論Ⅱ	bSod nams rtse mo 著『タ ントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	2	火曜2限
インド学仏教史特論Ⅰ	初期ヴェーダークンタ研究－ 神道の終着点をめぐって	2	講師(非)	2	集中講義
インド学研究演習Ⅰ	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	1	火曜5限
インド学研究演習Ⅱ	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	2	火曜5限
インド仏教史研究演習Ⅰ	梵蔵漢対照による『俱舎 論』の講読	2	桜井 宗信	1	月曜1限
インド仏教史研究演習Ⅱ	梵蔵漢対照による『俱舎 論』の講読	2	桜井 宗信	2	月曜1限

科目名：インド学特論Ⅰ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LM14204, **科目ナンバリング：**LGH-PHI601J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選

2・授業の目的と概要：本講義では『マイトラーヤニー サンヒター』、『カタ・サンヒター』(B.C. 800 頃以降)等におけるマールターンダの神話の各ヴァージョンを取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Schroeder の校訂本等を基本テキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Students

3. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 - 1 5 Martanda の神話原典講読

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：Maitrāyaṇī Samhitā 及び Katha-Samhitā (Ed. Schröder); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen; Gotō: Old Indo-Aryan Morphology; MacDonnell, Vedic Grammar for Students; Delbrück, Altindische Syntax; Whitney, Sanskrit Grammar 等。

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学特論Ⅱ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LM24204, **科目ナンバリング：**LGH-PHI602J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選

2・授業の目的と概要：本講義では『マイトラーヤニー サンヒター』、『カタ・サンヒター』(B.C. 800 頃以降)『タイッティリーヤ・サンヒター』(B.C. 700 頃以降),『シャタパタ・ブラーフマナ』(B.C. 650 頃以降)における「ヤジュニャとダクシナーとの結婚」の神話の各ヴァージョンを取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Schroeder の校訂本等を基本テキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, G

3. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2-15 Yajna と Dakṣiṇā との結婚の神話原典講読

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：Maitrāyaṇī Samhitā 及び Katha-Samhitā (Ed. Schröder); Taittirīya-Samhita (Ed. Weber); Satapatha-Brahmana (Ed. Weber); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen; Gotō: Old Indo-Aryan Morphology; MacDonnell, Vedic Grammar for Student; Delbrück,

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史特論Ⅰ

曜日・講時：火曜2限

セメスター：1 **単位数：**2.00単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LM12202, **科目ナンバリング：**LGH-PHI603J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読

2・授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

3. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ概論』講読 -1-
2. 『タントラ概論』講読 -2-
3. 『タントラ概論』講読 -3-
4. 『タントラ概論』講読 -4-
5. 『タントラ概論』講読 -5-
6. 『タントラ概論』講読 -6-
7. 『タントラ概論』講読 -7-
8. 『タントラ概論』講読 -8-
9. 『タントラ概論』講読 -9-
10. 『タントラ概論』講読 -10-
11. 『タントラ概論』講読 -11-
12. 『タントラ概論』講読 -12-
13. 『タントラ概論』講読 -13-
14. 『タントラ概論』講読 -14-
15. 『タントラ概論』講読 -15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み (100%)

6. 教科書および参考書：rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八卷, 中国蔵学出版社, 2015年8月, pp. 4-139.

※ コピーを配布する

7. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LM22204, **科目ナンバリング：**LGH-PHI604J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読

2・授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

3. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ概論』講読 -1-
2. 『タントラ概論』講読 -2-
3. 『タントラ概論』講読 -3-
4. 『タントラ概論』講読 -4-
5. 『タントラ概論』講読 -5-
6. 『タントラ概論』講読 -6-
7. 『タントラ概論』講読 -7-
8. 『タントラ概論』講読 -8-
9. 『タントラ概論』講読 -9-
10. 『タントラ概論』講読 -10-
11. 『タントラ概論』講読 -11-
12. 『タントラ概論』講読 -12-
13. 『タントラ概論』講読 -13-
14. 『タントラ概論』講読 -14-
15. 『タントラ概論』講読 -15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み (100%)

6. 教科書および参考書：rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八卷, 中国蔵学出版社, 2015 年 8 月, pp. 4-139.

※ コピーを配布する

7. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：インド学仏教史特論 I

曜日・講時：集中講義

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：講師（非）

コード：LM98822, 科目ナンバリング：LGH-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：初期ヴェーダーンタ研究---神道の終着点をめぐって

2・授業の目的と概要： 神道と祖道の二道説は古ウパニシャッドの代表的教説の一つであるが、輪廻を脱するための神道の終着点はウパニシャッドにより表現を異にしている。一元論哲学派であるヴェーダーンタの基本典籍『ブラフマ・スートラ』には、二人の論師が神道の終着点が何であるかについて論争したことが記録されており、ヴェーダーンタ学派ではこの論争の解釈をめぐって対立が起きた。この授業ではこの論題に関して、まずシャンカラの注釈を読み、次にバースカラの注釈を読んで、古代から中世初期にかけてのバラモン思想の進展の一端を明らかにする。

3. 学習の到達目標： サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてヴェーダーンタ学派内の神学的論争の一端を理解する。梵我一如の悟りは瞑想を含む行為を超えているとするシャンカラの不二一元論と、瞑想を含む行為により梵我一如の悟りに漸次到達できるとするバースカラの知行併合論は、中世初期ヴェーダーンタの最も重要な対立軸である。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりである。

1. 問題の所在についての講義
2. シャンカラ注講読 (Brahmasūtra 4.3.7-8)
3. シャンカラ注講読 (Brahmasūtra 4.3.9-13)
- 4.-10. シャンカラ注講読 (Brahmasūtra 4.3.14)
- 11.-14. バースカラ注講読
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：出席（30%）と講読（70%）での貢献度を併せて総合的に判断する

6. 教科書および参考書：シャンカラ註およびバースカラ註の各サンスクリット原典、シャンカラ註の翻訳のコピーを配布する。

7. 授業時間外学習：原典（シャンカラおよびバースカラ）と翻訳（シャンカラ）のコピーを配布するので、あらかじめテキストを読解した上で授業に臨むこと

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

受講者はサンスクリット語文法の基礎的知識をもっていることを履修条件とする。

科目名：インド学研究演習 I

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LM12508, **科目ナンバリング：**LGH-PHI606J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究

2・授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 VII 88 「Varuna 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for

3. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 - 1 5 R.gveda VII 88

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%) および授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：R.gveda-Samhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学研究演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LM22507, **科目ナンバリング：**LGH-PHI607J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究

2・授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 VII 33 「Vasistha 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for

3. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション（テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明）

2－15 R.gveda VII 33

5. 成績評価方法：授業への準備状況（30%）および授業で示される理解度（70%）

6. 教科書および参考書：R.gveda-Samhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史研究演習Ⅰ

曜日・講時：月曜 1 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LM11101, **科目ナンバリング：**LGH-PHI608J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2・授業の目的と概要： Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では同書第 1 章（「界品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

3. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み（100%）

6. 教科書および参考書： 用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舎論Ⅰ界品』（江島恵教著）、山喜房仏書林、平成 15 年。
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎積論』（真諦訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

7. 授業時間外学習：予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史研究演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 1 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LM21101, 科目ナンバリング：LGH-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2・授業の目的と概要： Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では同書第 1 章（「界品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

3. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み（100%）

6. 教科書および参考書：用いる基本資料は次の通り：

- ・梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舎論 I 界品』（江島恵教著）、山喜房仏書林、平成 15 年。
- ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎積論』（真谛訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

7. 授業時間外学習：予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。